

# 水稻の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！

～周辺と出穂時期が異なる水田や近年発生の多い地域では特に注意して下さい～

本県において斑点米カメムシ類による斑点米は、等級格下げの主要因となっています。主な加害種はクモヘリカメムシ（写真1）、イネカメムシ（写真2）、アカスジカスミカメです。

近年、県南地域を中心に発生が確認されていたイネカメムシが県内全域で発生が認められていますので注意して下さい。

斑点米カメムシ類の成虫は、水稻の出穂前は畦畔や周辺のイネ科雑草地に生息し、出穂とともに水田に侵入します。

早生品種等の周辺より出穂が早い水田や、反対に周辺より出穂が遅い水田では、成虫の飛来が集中して、不稔等の被害が発生するおそれがあります。周辺と出穂時期が異なる水田では特に注意してください。

## [防除対策]

- ① 水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるので除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 不稔被害の軽減を目的とした防除は、出穂期～穂揃期に行う。出穂期前後の圃場で成虫や幼虫を確認した場合は防除を実施する。
- ③ 乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、出穂後10～15日頃（乳熟期）に行う。
- ④ 発生量が多い地域は、出穂期～穂揃期と乳熟期の2回散布を検討する。
- ⑤ ふ化直後の幼虫は非常に小さく、気がつかない場合があるため、水田内をよく観察する。
- ⑥ 防除の際には、収穫前日数や使用回数及び周辺作物（特に早生品種を作付している水田）への飛散に注意する。



写真1 クモヘリカメムシ(成虫)



写真2 イネカメムシ(成虫)